

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年12月21日

協議会名: 深川市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
空知中央バス㈱	運行系統名: 市内循環線 運行区間: 深川西高校方面先回り あけぼの方面先回り 起点: 深川市立病院前 終点: 深川駅前 運行回数: 深川西高校方面先回り 平日: 4便 土日祝: 3便 あけぼの方面先回り 平日: 4便 土日祝: 3便 運賃: 190円	深川市地域公共交通活性化協議会において、市内の公共交通について整理・検討した「深川市地域公共交通網リバイバルプラン」の策定などにより、利便性の向上及び収支改善に努めた。	A 計画通りの運行がなされ、適切に事業が行われた。	▼目標(年間利用者数) 14,888人(令和3年度の年間利用者数の3/4) ▼実績 20,752人 A 新型コロナウイルス感染症拡大防止による外出自粛等の影響の緩和により、目標値を上回る実績となったが、人口減少や少子高齢化の影響により、令和4補助年度実績を下回る結果となった。	利用者に安全に利用してもらえるよう、車内の換気や消毒作業をはじめとした新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を引き続き行っていくとともに、高齢者バス利用料金助成事業の継続的な実施により、引き続き利用者数の確保に努める。また、路線バス乗り方教室などの実施により、新規利用者数の確保に努めるとともに、利便性の向上及び収支改善に努める。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和5年12月21日

協議会名:	深川市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>深川市は、北空知圏域をはじめとする広域連携によるまちづくりを推進しており、周辺市町を結ぶバスや鉄道は、北空知圏域の住民を中心とした通学や通院、買物等の足として重要な役割を果たしている。</p> <p>市内循環線は、JR深川駅、各病院、公共施設、商業施設などの主要施設や、まちなかの住宅密集地などを結び、市内移動の基幹的な役割を果たすとともに、周辺市町と深川市を結ぶ広域路線に接続する重要な位置づけにある。</p> <p>また、今後は人口減少や少子高齢化が加速し、利用者が減少していくことが予想される中で、持続可能な公共交通網の形成を図るためには市内循環線は極めて重要な路線であることから、確保・維持していく必要がある。</p>

深川市地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

深川市は、北空知圏域をはじめとする広域連携によるまちづくりを推進しており、周辺市町を結ぶバスや鉄道は、北空知圏域の住民を中心とした通学や通院、買物等の足として重要な役割を果たしている。

市内循環線は、JR深川駅、各病院、公共施設、商業施設などの主要施設や、まちなかの住宅密集地などを結び、市内移動の基幹的な役割を果たすとともに、周辺市町と深川市を結ぶ広域路線に接続する重要な位置づけにある。

また、今後は人口減少や少子高齢化が加速し、利用者が減少していくことが予想される中で、持続可能な公共交通網の形成を図るためには市内循環線は極めて重要な路線であることから、確保・維持していく必要がある。

地域公共交通の現況

- ・JR函館本線、留萌本線
深川駅、納内駅、北一已駅
- ・空知中央バス(株)
広域5路線、市内4路線
- ・北海道中央バス(株)
都市間バス1路線
- ・道北バス(株)及び沿岸バス(株)
広域1路線
- ・ジェイ・アール北海道バス(株)
広域1路線
- ・タクシー事業者2社
音江ハイヤー(株)、(有)納内ハイヤー

生活交通確保維持改善計画の目標

令和3年度の年間利用者数の3/4(14,888人)

※新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛などに伴い、路線バス需要が低下しており、路線バス需要の早期回復が見込めないため、令和3年度の年間利用者数の3/4を目標に設定したもの

協議会開催状況

- ▼第1回会議 令和5年6月23日
・地域内フィーダー系統確保維持計画の策定について
- ▼第2回会議 令和5年12月21日
・地域内フィーダー系統確保維持計画事業評価について

令和5補助年度事業概要

【系統名】市内循環線(深川西高校方面先回り、あけぼの方面先回り)

起点: 深川市立病院前

終点: 深川駅前

運賃: 一律190円

1) プロセス、創意工夫

- ・令和2年4月1日より、回り方を2通りにしたことにより、利用者が目的地としている場所まで短時間で移動ができるようになった。また、令和3年4月1日には、【①循環線を通学の時間帯に対応②土日祝の各系統1便目の運休】のダイヤ変更を行った。
- ・令和5補助年度においては、昨年度に引き続き、運行回数(費用)を抑えつつ、「循環線」としては令和4年に次ぐ利用者数を確保することができた。
- ・満70歳以上の市民を対象とした高齢者バス利用料金助成事業の継続実施により、利用促進を図った。
- ・地域住民等を対象とした「路線バス乗り方教室」を、市のイベント「スプリングフェスタ」の一環として継続実施し、路線バスの乗り方を説明したほか、実際に乗車体験をしてもらい、「循環線」の利便性や運行経路などについて知ってもらう機会を設けた。

2) 運行系統

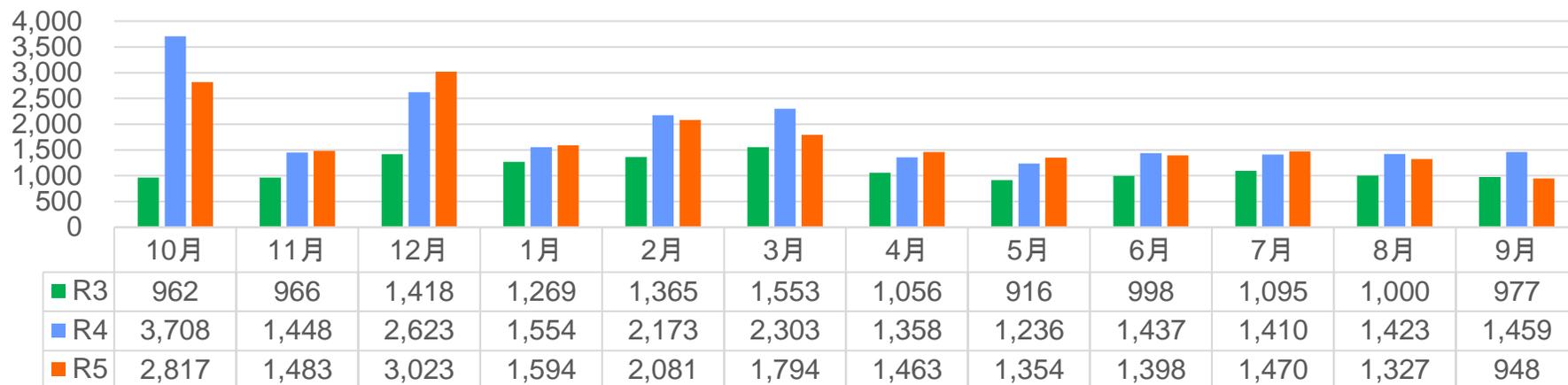
▼深川西高校方面先回り



▼あけぼの方面先回り



3) 利用実績【月別利用者数（人）】

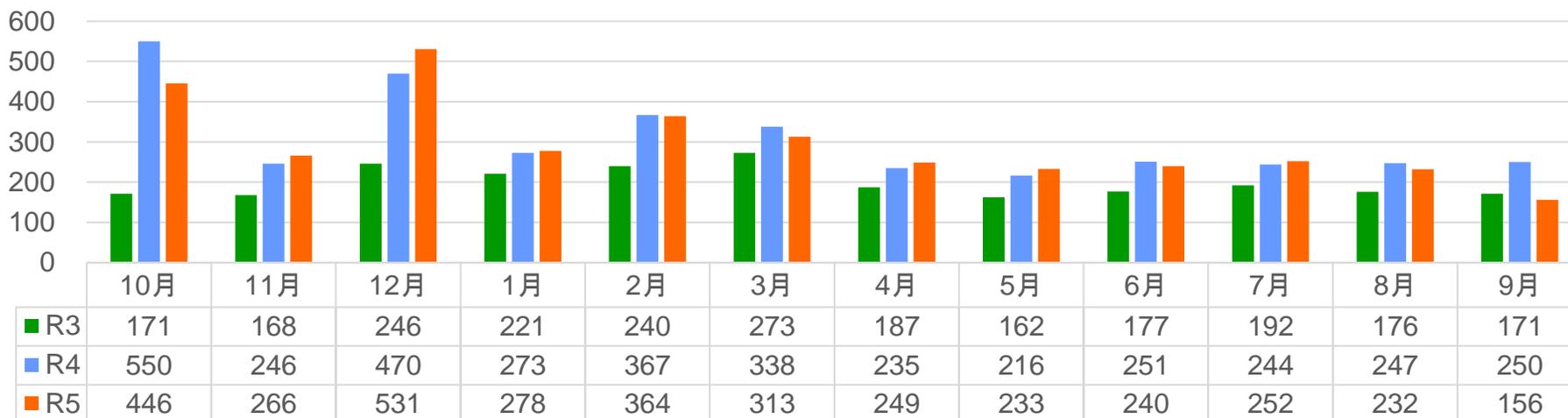


・ R 3 (R2.10~R3.9) 年間13,575人

・ R 4 (R3.10~R4.9) 年間22,132人

・ R 5 (R4.10~R5.9) 年間20,752人

4) 収入実績【月別運送収入額（千円）】



・ R 3 (R2.10~R3.9) 年間2,379千円

・ R 4 (R3.10~R4.9) 年間3,686千円

・ R 5 (R4.10~R5.9) 年間3,559千円

5) 事業実施の適切性

計画通りの運行がなされ、適切に事業が行われた。
なお、目標達成に資する事業として実施した、満70歳以上の市民を対象とした高齢者バス利用料金助成事業(通常運賃よりも安価に路線バスを利用することができる乗車券を販売)や路線バス乗り方教室の継続実施により、路線バスの利用促進に一定程度の効果があったと評価している。

6) 目標・効果達成状況

【目標】

令和3年度の年間利用者数の3/4(14,888人)

【実績】

令和5補助年度: 20,752人

【達成状況】

新型コロナウイルス感染症拡大防止による外出自粛等の影響の緩和により、目標値を上回る実績となったが、人口減少や少子高齢化等の影響もあり、令和4補助年度実績を下回る結果となった。

7) 事業の今後の改善点

利用者に安全に利用してもらえるよう、車内の換気や消毒作業をはじめとした新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を引き続き行っていくとともに、高齢者バス利用料金助成事業の継続的な実施により、引き続き利用者数の確保に努める。
また、路線バス乗り方教室などの実施により、新規利用者数の確保に努めるとともに、利便性の向上及び収支改善に努める。

8) 地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果(案)

運輸局記載欄